



# 海や川の面白さを伝え 五感で感じる授業をめざす

大学院社会産業理工学研究部  
生物資源産業学域(生物生産系)教授  
**浜野 龍夫** (はまの たつお)



学生にレクチャーする浜野先生(中央)



## まずは感動から 卒業時には水圏産業の サポーターに

一昨年、本学初の農学系「生物資源産業学域」が開設され、浜野先生は文字通り「水を得た魚」のごとく、専門の水産学に取り組み始めました。

「生物生産フィールド実習」(1年前期)や「水圏生産科学」(2年後期)は、フィールドワークを取り入れた体験型の授業です。学生にとっても上級生のいない中で、先生と共に水産業を五感で学んでいます。

授業の目的は、次代の1次産業をサポートする人材、また6次産業(ビジネス化)を拓く人材の育成です。そのために大切なのが、農林水産業で働く喜びや楽しさ、もちろん苦勞も含めたダイナミックな世界を体感することです。

「学生には、漁業の厳しさを見聞

させることよりも、むしろ、海の爽快感や海洋生物の面白さなど、フィールドの魅力伝えたい。汗をかいた後に見える景色とか、おいしいお弁当とか、海で働くすがすがしさを知ってほしいですね」

実習の主な拠点となっているのが、学部附属「水圏教育研究センター」(鳴門市堂浦)です。

先生は授業だけでなく、県や漁業関係者と協働して、県南部での海藻養殖の創出にも取り組んでいます。

「生産だけでなく、ゆくゆくは商品化までサポートできる学部になつていたら」

という先生の思い入れの原点は、出身が美波町という海辺の町。海が好きで、大学は「農林水産省水産大学校」(山口県)へ。生物学を専攻しながら、授業より海に出るのが好きでした。

「水生生物の生態研究で摩周湖や西表島で潜水調査をしたり、東シナ海では大型船での調査を経験。瀬戸内海の干潟に竹を立ててナマコを増やし、各地の川に開発した魚道を設置したりと、水圏フィールドで研究してきた様々な経験が、

愉快な持ちネタになってます。それが、実習や講義で、学生にワクワク感を持たせることに役立っているんじゃないでしょうか」

## 2009年、本学総合科学部に

「大学教員として、最後は故郷のために役立ちたい」

と、豊かな徳島の自然と海に胸をときめかせながら、後継者を育む毎日です。

